

発掘が語る中世の松本

— 武士の城・館と人びとの信仰 —

記念講演・報告資料



平成 26 年 3 月 16 日 (日)

主催：松本市教育委員会

共催：信州大学地域戦略センター

プログラム

- 開会 (10:00)
- 主催者あいさつ

- 趣旨説明 笹本正治 (信州大学副学長・地域戦略センター長)

- 1 記念講演 (10:25 ~ 11:25)
「日本のなかの松本の中世—城館と寺院は語る—」
講師 中井 均 (滋賀県立大学教授)

- 2 報告 1 殿村遺跡と虚空蔵山城跡の発掘 (11:30 ~ 12:00)
—虚空蔵山麓の歴史的景観をさぐる—
竹原 学 (松本市教育委員会)
- 報告 2 井川城跡の発掘—見えてきた？小笠原氏の居館— (12:50 ~ 13:25)
熊谷博志 (松本市教育委員会)
- 報告 3 信州の「山の寺」と聖地 (13:25 ~ 14:00)
遠藤公洋 (長野県教育委員会)
- 報告 4 信州の中世城館と聖地・寺院 (14:00 ~ 14:30)
河西克造 (長野県埋蔵文化財センター)

- 3 シンポジウム 「発掘が語る中世の松本」 (14:45 ~ 16:00)
コーディネーター：笹本正治
パネリスト：河西克造、遠藤公洋、熊谷博志、竹原 学
コメンテーター：中井 均

- 閉会 (16:00)

※休憩時間は 12:00 ~ 12:50 (昼食) と 14:30 ~ 14:45 の 2 回取ります。

講師プロフィール

笹本正治（さかもとしょうじ）氏

信州大学副学長・地域戦略センター長・殿村遺跡調査指導委員。

松本市をはじめ飯山市、伊那市、安曇野市など、地域づくりや文化財行政とのかかわりも深い。

略歴

1951年山梨県生まれ
1977年名古屋大学大学院文学研究科博士課程
前期課程修了。文学博士（歴史学）
1977年名古屋大学文学部助手
1984年信州大学人文学部助教授
1994年同教授
2009年10月より副学長
2010年より殿村遺跡調査指導委員（委員長）
2013年より副学長・地域戦略センター長

専攻

日本史（武田信玄を中心とする戦国時代・災害伝承・
鋳物師などの研究）

著書

『中世の音・近世の音―鐘の音の結ぶ世界―』（講談社）
『真田氏三合一真田は日本一の兵一』（ミネルヴァ書房）
『修験の里を歩く―北信濃小菅原―』（高志書院）
『武田勝頼―日本にかくれなき弓取り―』（ミネルヴァ書房）
『武田・上杉・真田氏の合戦』（宮帯出版社）など

中井均（なかいひとし）氏

滋賀県立大学教授・殿村遺跡調査指導委員。現在殿村遺跡調査指導委員ほか、
各地の城館遺跡の調査や整備の委員を多数兼任。

略歴

1955年大阪府生まれ
龍谷大学文学部史学科卒業
財団法人滋賀県文化財保護協会を経て、
米原町教育委員会勤務
2008年米原氏教育委員会退職。NPO法人
城郭遺産による街づくり協議会
理事長就任
2009年より同志社大学非常勤講師
龍谷大学非常勤講師
2010年より長浜市歴史博物館館長
殿村遺跡調査指導委員
2011年滋賀県立大学准教授
2012年同教授

専攻

考古学（中・近世城館遺跡・近世大名墓の研究）

著書

『近江の城―城が語る湖国の戦国史―』（サンライズ出版）
『徹底図解 日本の城』（新星出版）
『日本名城100選』（編著、小学館）
『長野の山城ベスト50を歩く』（サンライズ出版）など

河西克造（かさいかつぞう）氏

長野県埋蔵文化財センター主任調査研究員

専攻

考古学（中・近世城館遺跡・墓制の研究）

略歴

1961年長野県生まれ
立正大学大学院文学研究科史学専攻修士課程中退

著書

『図説高島城と諏訪の城』（共著、郷土出版社）
『探訪信州の古城』（共著、郷土出版社）
『川中島の戦いと北信濃』（共著、信濃毎日新聞社）
『日本の中世墓』（共著、高志書院）
『長野の山城ベスト50を歩く』（編著、サンライズ出版）
など

遠藤公洋（えんどうきみひろ）氏

長野県教育委員会文化財生涯学習課指導主事

略歴 1964年長野県生まれ
上越教育大学大学院教科・領域教育専攻修士課程修了
1987年より長野県内の中学校教員
2008年より現職

専攻

日本史（戦国時代・信仰史の研究）

著書

『定本・北信濃の城』（共著、郷土出版社）
『長野の山城ベスト50を歩く』（共著、サンライズ出版）など

竹原学（たけはらまなぶ）

松本市教育委員会文化財課埋蔵文化財担当 係長

略歴 1964年長野県生まれ
2009年より殿村遺跡発掘調査担当

熊谷博志（くまがいひろし）

松本市教育委員会文化財課埋蔵文化財担当 主事

略歴 1982年長野県生まれ
2013年より井川城跡発掘調査担当

日本のなかの松本の中世 - 城館と寺院は語る -

中井 均(滋賀県立大学)

◆はじめに

- ・「松本の殿村遺跡で15世紀の石垣を発掘！」という電話 ⇒ 信じられない【城館に石垣は16世紀後半に導入されるという常識】
- ・初めて訪れた殿村遺跡 ⇒ 後方に聳える虚空蔵山の容姿【信仰の山容】

◆居館か寺院か

- ・寺院の前面に巡らされた石垣
万徳院 ⇒ 吉川元春の長男元長により天正3年(1575)頃に建立。吉川広家により菩提寺となる
凌雲跡 ⇒ 総門両脇の巨大な石塁【周防守護大内義興による建立(義興は享禄元年:1528に没して凌雲寺に葬られる)】
- ・殿村遺跡の評価 ⇒ 会田氏に関わる寺院の可能性が大【正面に石垣を配置】

◆虚空蔵山城の構造

- ・虚空蔵山の山稜部は極めて小規模な城郭 ⇒ 城郭の本体は実は山稜部分ではなく、南側谷筋部か?
秋吉城と、中ノ陣城、さらには巨大な堅堀に挟まれた谷筋 ⇒ 階段状に削平された平坦地(曲輪)の存在【日本の山城をあり方を根本的に見直す必要性を示唆】
『長野縣町村誌』南信篇(昭和11年:1936)に描かれた虚空蔵山の姿 ⇒ 谷筋の削平地を「馬場」「中陣」「井戸」と記し、現在の中ノ陣を「会田氏山城」と記している
- ・鳴山城跡(福島県南会津町) ⇒ 愛宕山の山稜は小規模で、山麓谷筋に巨大な居館空間【「愛宕山」地名にも注目】
- ・観音寺城跡(滋賀県東近江市) ⇒ 織山の南側山腹部に無数の曲輪が配置されている【山頂部を巨大な土塁に見立てている】

◆山城と寺院

- ・南北朝時代に築かれた山城 ⇒ 山岳寺院に籠る【笠置寺(笠置城)、智積寺(船上山城)、霊山寺(霊山城)】
- ・寺院が城郭に取り込まれる
観音寺城跡 ⇒ 近江守護佐々木六角氏の居城

南北朝時代に観音正寺に城を構える ⇒ 以後、佐々木六角氏の居城となる山頂部には城郭施設が構えられない ⇒ 城郭としてはイレギュラーな構造【寺院勢力との微妙なバランス】

宝満城跡(福岡県太宰府市) ⇒ 天武天皇白鳳2年法僧心蓮により開山【中世には少弐氏が有智山城を築城、戦国時代には大友氏の家臣高橋氏が宝満城に拠った】

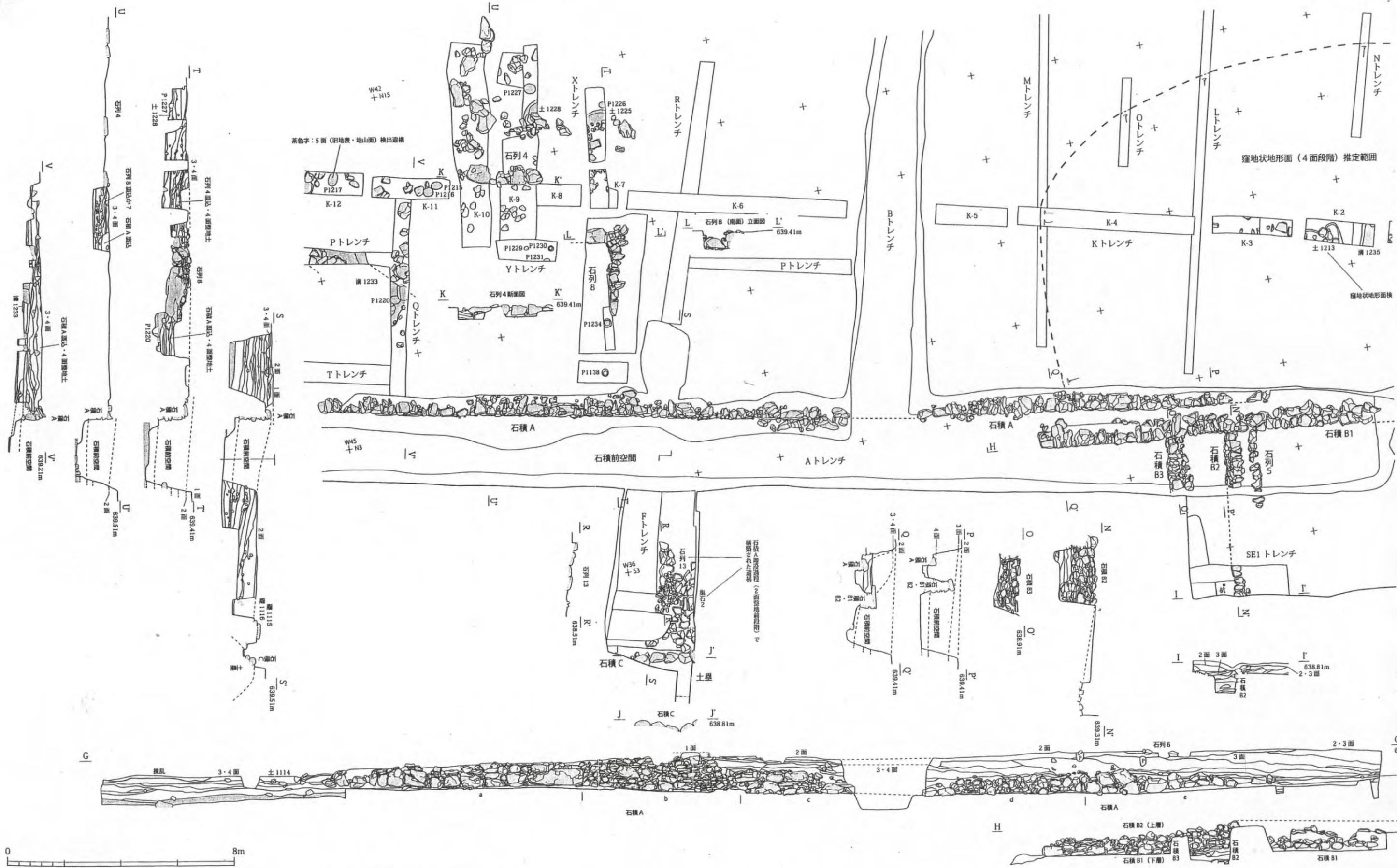
- ・城郭内に寺院が構えられる
毛利氏(小早川氏)の場合 ⇒ 吉田郡山城(広島県安芸高田市)【妙寿寺・満願寺・常栄寺】、新高山城跡(広島県三原市)【匡真寺:寺院域のみに瓦が分布】
美作岩屋城跡 ⇒ 慈悲門寺【寺院域のみに瓦片が分布】
城跡に残る「寺屋敷」地名 ⇒ 左沢楯山城跡(山形県大江町)、春日山城跡(新潟県上越市)、守山城跡(富山県氷見市)など

◆石垣の系譜

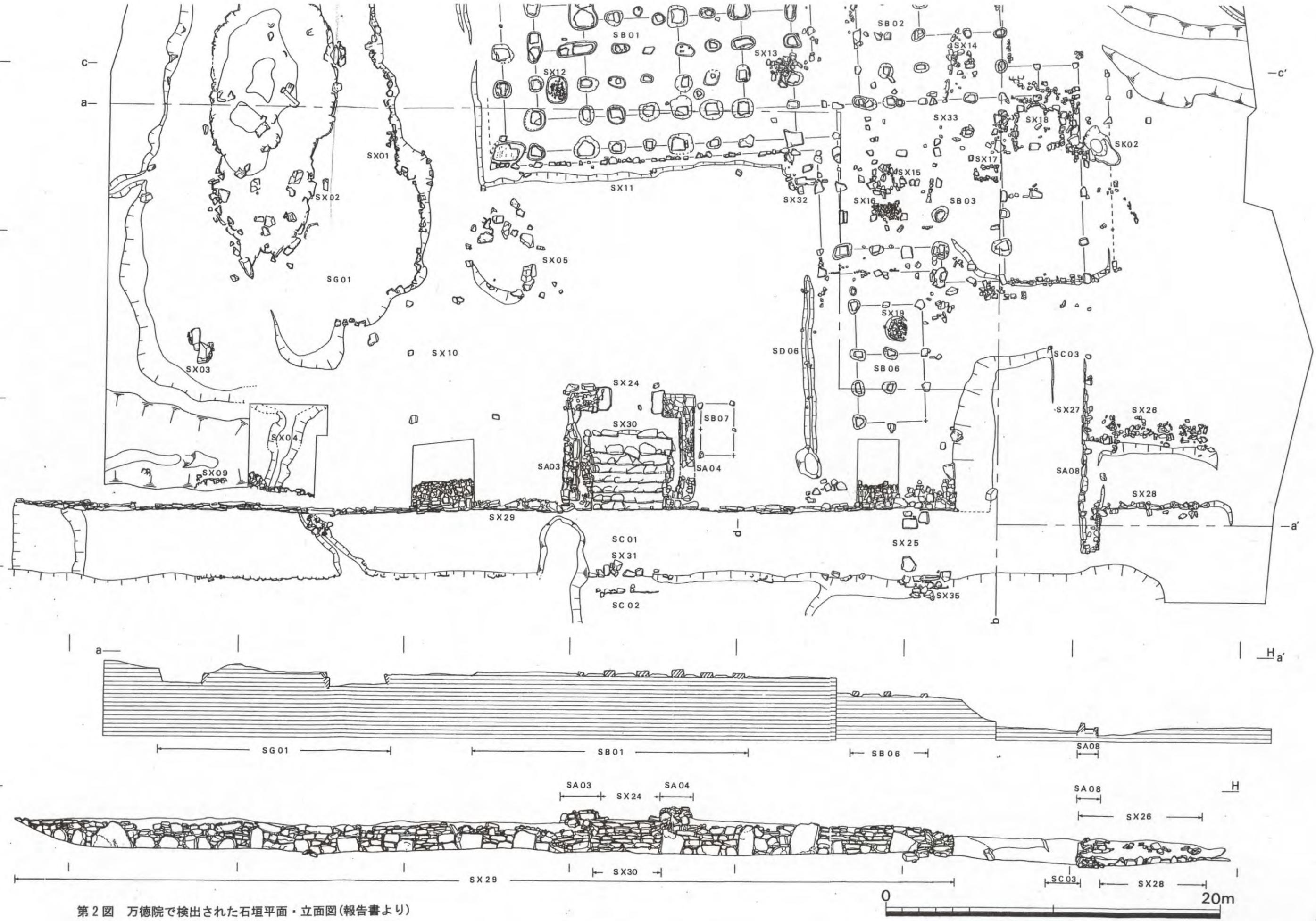
- ・虚空蔵山城跡の石垣 ⇒ 最下段の基底石が出っ張っている【顎止め技法】
※八王子城御主殿(東京都)、金山城跡(群馬県)、観音寺城跡池田丸など
- ・寺院の石垣 ⇒ 近年の発掘調査の大きな成果【慈照寺(銀閣寺:15世紀)、勝持寺(15世紀)、能仁寺(15世紀)】
- ・田辺城跡(京都府京田辺市) ⇒ 15世紀後半から16世紀初頭の石垣が検出【花崗岩には矢穴痕が認められる】
栗石(裏込め)が充填され、ほぼ垂直に積む ⇒ 慈照寺石垣に酷似【京、大和などの寺院の技術】
- ・観音寺城の石垣 ⇒ 「御屋形様石垣」(金剛輪寺『下倉米銭下用帳』弘治2年:1556)【寺院側の技術を援用】
- ・岩瀬谷古墳群(滋賀県甲賀市)の発掘調査 ⇒ 矢穴痕の認められる巨石(古墳の横穴式石室を飯場に利用)【14世紀の石切場】
周辺に残る石造物 ⇒ 少菩提廃寺の石造地藏菩薩、清水寺の石造地藏菩薩【いずれも14世紀】
矢穴技法による石切 ⇒ 近江の寺院へ伝播【観音寺城の石垣へ】
※安土城の石垣には用いられない技術

◆おわりに

- ・殿村遺跡での石垣技術 ⇒ 虚空蔵山城の石垣へ
さらにはその技術が林大城、桐原城、山家城など松本の戦国時代の山城の石垣に繋がっていくのではないだろうか ⇒ 日本列島における城郭への石垣導入の先駆的地域のひとつとなる【日本のなかでの評価】
- ・今後の展望 ⇒ 国史跡を視野に！【誇るべき先人の遺産】

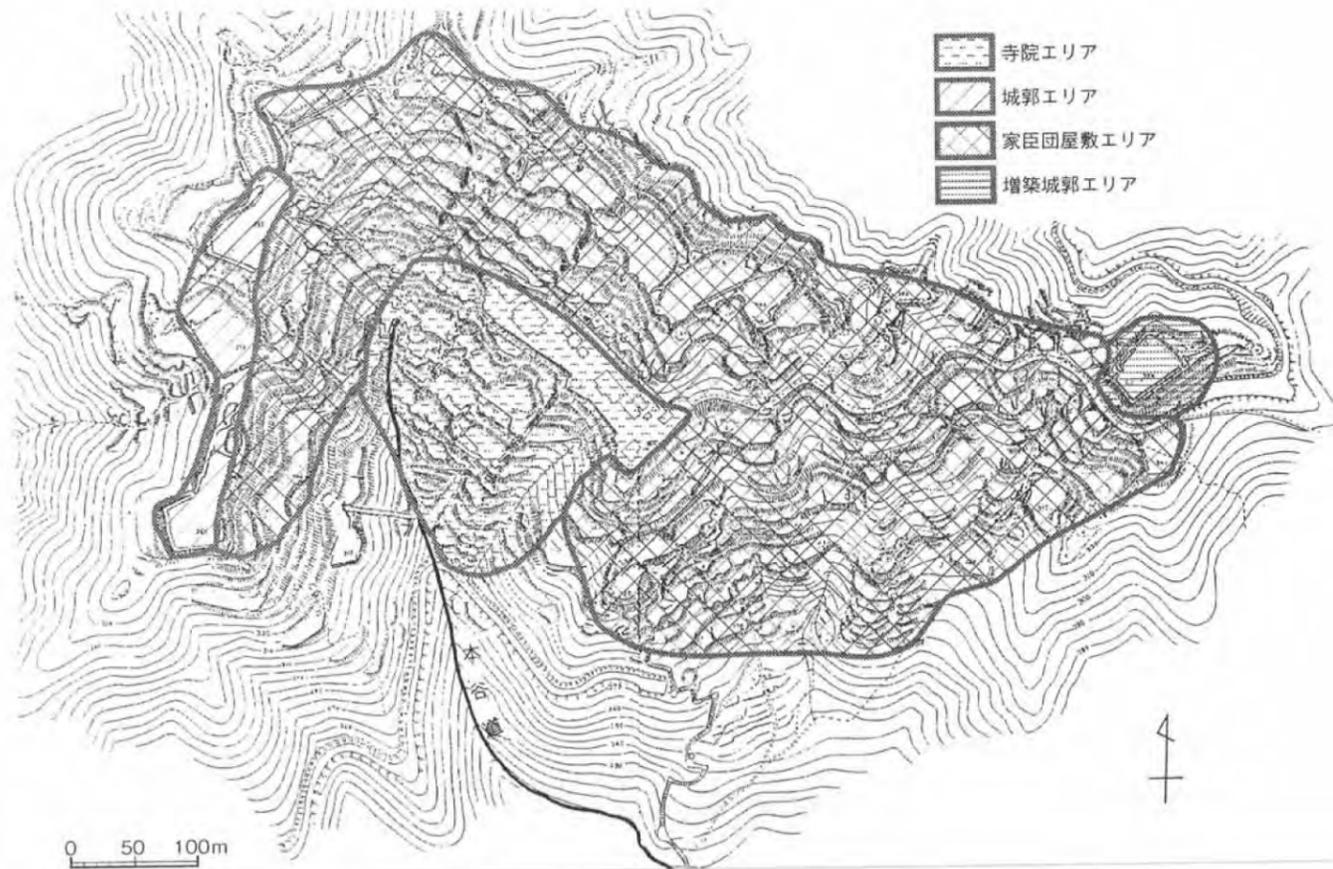


第1図 殿村遺跡第1次調査で検出された石垣平面・立面図(報告書より)

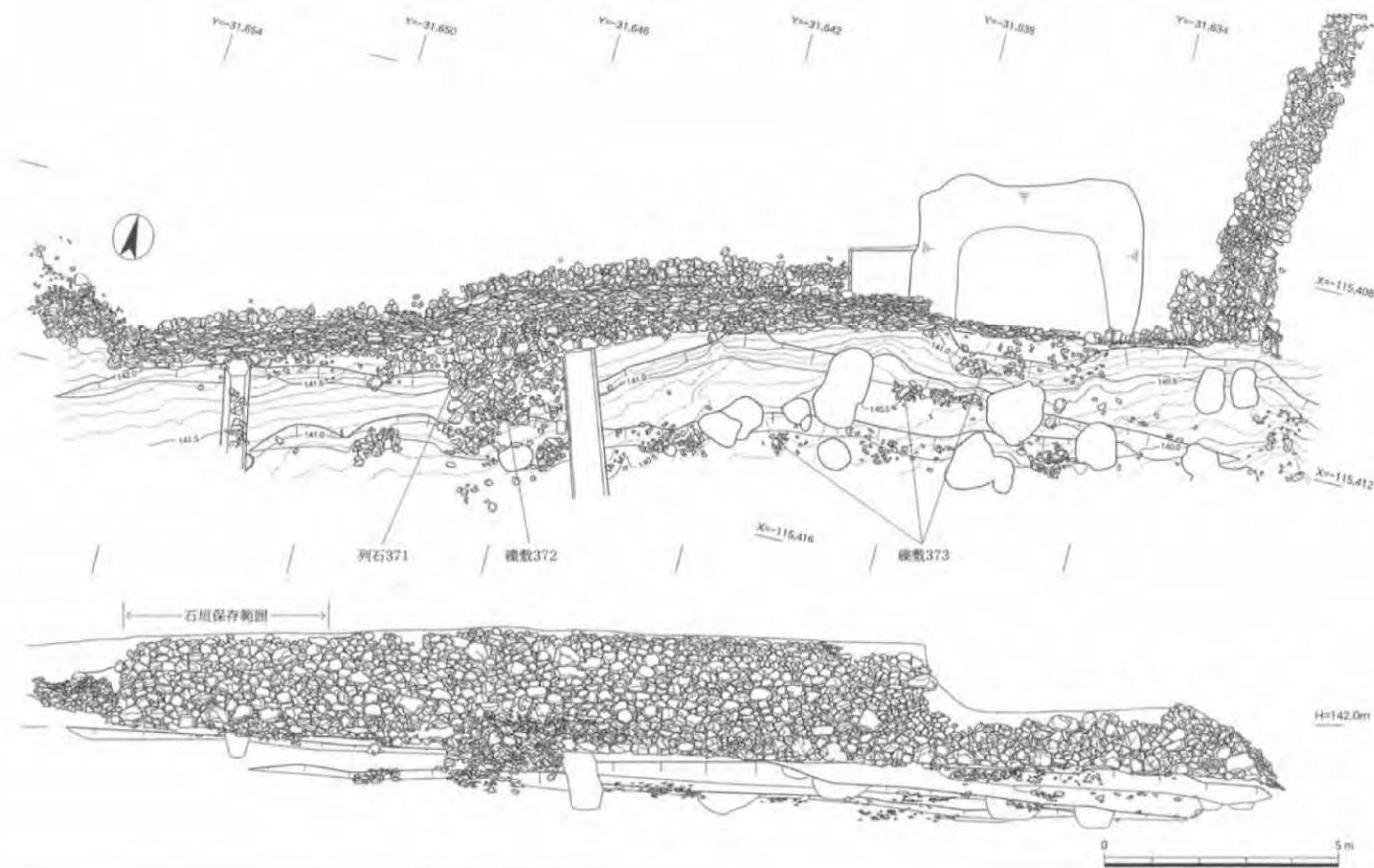


第2図 万徳院で検出された石垣平面・立面図(報告書より)

(S=1:200, H=441.0m)



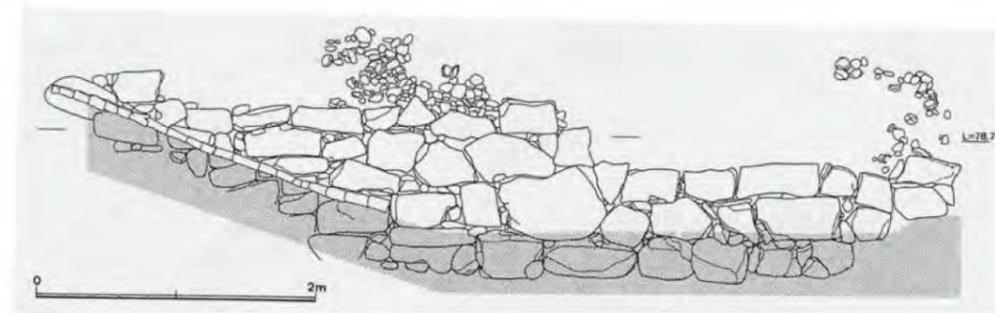
第7図 観音寺城変遷想定図(村田修三氏作図に加筆)



第9図 勝持寺跡で検出された石垣平面・立面図(報告書より)



第8図 宝満山遺跡遺構・遺物分布図(太宰府市教育委員会)



第10図 田辺城跡で検出された石垣立面図(現地説明会資料より)